

と わ 永久の友好へ固い握手

～中国・広州市と『友好交流促進都市』提携～



5月19日(日)、登別市の公式訪問団が中国広東省広州市を訪れ、『友好交流促進都市』盟約の署名式が行われました。

訪問団は、上野市長を団長に、熊野市議会議員、登別商工会議所の上田会頭ら22人。署名式では、広州市の陳副市長、上野市長がそれぞれ『友好交流促進都市』盟約書に署名し、両市の友好を象徴する固い握手を交わしました。

また、この盟約の締結に合わせて、登別市民55人が参加したツアーも広州市に入り、公式訪問団と合流。20日には広州市政府主催の歓迎レセプションに、公式訪問団と市民ツアーが参加し、署名書と記念品の交換式が行われました。

広州市とは、平成12年3月、広州市で行われた登別観光プロモーションをきっかけに、結びつきが強まってきたもので、今後は、観光・経済・文化・スポーツなど、幅広い分野での交流が期待されています。



子育てをサポートします

～子育て支援センター『遊びの広場』～

6月4日(火)から、富士町の子育て支援センターで、幼児とその母親を対象に『遊びの広場』が行われました。

この『遊びの広場』は、1歳児と2歳児の2グループに分かれ、親子で遊ぶ楽しさを体験してもらいながら子育てを応援しようと市が毎年開いているもので、今年度のスタートとなったこの日は、1歳児グループの親子10組が参加。自己紹介の後、職員の指導を受けながら、手遊びや絵本の読み聞かせ、新聞紙を使ったゲームなどを楽しみました。

今後、1歳児グループは毎週火曜日、2歳児グループは毎週木曜日にそれぞれ7回開かれ、集団遊び、手遊び、七夕飾りの制作、外遊びなどを体験します。

この事業は、今年度今回を含め計4回開催される予定です。



キツツキ見つけたよ!

～ふおれすと鉱山設立記念市民探鳥会～



5月19日(日)、鉱山町でネイチャーセンター『ふおれすと鉱山』のオープンを記念した市民探鳥会が自然愛好グループ『ヨシキリの会』と日本野鳥の会室蘭支部の共催で行われました。

約30人の参加者は、あいにくの雨にもかかわらず鮮やかな新緑が映える森の中を2グループに分かれ、ウグイスをはじめコルリ、アオジなどの鳴き声を聞きながら散策。子育て中のヒヨドリのつがいや小さなキツツキ・コゲラが枝をつつくところなどを双眼鏡で観察しました。

市外から参加した女性は、ふおれすと鉱山について「素敵な自然に囲まれた良い施設ですね。こういう自然観察の拠点がわたしのまちにはないのでうらやましいです」と話していました。